

令和5年度 学校関係者評価シート(年度末評価)

令和6年3月19日

校番	199	学校名	広島県尾道南高等学校	校長氏名	中野 尚人	定時制	本校
----	-----	-----	------------	------	-------	-----	----

学校関係者評価 (年度末評価)	A	とても適切である。	B	概ね適切である。		
	C	あまり適切でない。	D	まったく適切でない。	N	判定できない。

評価項目	評価	理由・意見
目標, 指標, 計画等の設定の適切さ	B	<p>・生徒一人一人に合わせて取り組んでいて、授業のあり様、生徒への対応、学力向上、主体性の向上等、「一人の生徒をおもていかない」とする目標(大前提)は限りないものと思われる。粘り強く自信をもって進めてほしい。ただ、生徒アンケートの数値を指標とする場合、高止まりすることもある(例えば満足度とか)ので次年度の目標を設定する場合は、必ずしも右肩上がりに(前年度よりも高く)設定する必要はないと思う。</p> <p>・目標設定と評価指標(アンケート項目)の整合性はどうか。ぜひアンケート項目を会議において提示していただきたい。例えば「生徒会行事を中心とした活動を生徒が企画・参加することにより主体性や協調性を身につけさせる」という目標設定に対して、「生徒会行事満足度(肯定的評価)」という評価指標で果たして適切なのかどうかということを検証する必要がある。</p>
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	<p>・様々な要素を分析され、適正な見方ができていると思う。</p> <p>・前年度より良くなった。</p>
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<p>・全ての教職員が情報を共有しながら、絶えず改善を意識し、生徒に寄り添って取り組んでいると思う。</p> <p>・資料作りの工夫(見える化)が望まれる。</p>
評価結果の分析の適切さ	A	<p>・生徒アンケート等を分析され、数値目標に対する達成度から内容の細かい評価を行い、適確に分析している。教職員の努力の成果が4年間の中で生徒の成長として表れていると思う。</p> <p>・生徒の声や感想文などを質的に分析していく。</p>
今後の改善方策の適切さ	A	<p>・まだまだ自己肯定感を持ってない生徒もいる中で、がんばって寄り添っていると思う。これからも一人一人に寄り添って頑張ってもらいたい。そのような取組について外部に向けての情報発信をもっとしていただくと良い。引き続き、「生徒一人一人の最善の利益」を実現できる学校づくりを期待する。</p> <p>・今後も現状に満足せずに改善を積み重ねてほしい。</p>
総合評価	A	<p>・4年間という期間で生徒たちを社会に繋げていくことを第一に掲げ、校長を中心に教職員が議論を重ねて「やってみる」という積極性の高さが南高の組織としての強みと思える。「対話と支援」を軸に引き続き、生徒の心理的安全性を高めるとともに地域と連携して生徒の向社会的行動の育成に努め、生徒の貢献感、自己有用感の高揚を図っていける学校づくりを応援する。</p>